



自分には良いところがある

少し前の話になりますが、6月に3年生以上の子供たちに実施したアンケートの結果を7月の家庭・地域・学校協議会で話題にしました。「学校は楽しい」が88.6%でした。ほとんどの子は楽しい

と答えている中で、残りの1割ほどの原因を探り、個別に対応して学級経営に活かしていきたいなどの話をしました。

また、「自分には良いところがあるか」という問いに対して、「ある」と回答した割合が66.2%でした。我々の願いとしては、8割から9割くらいの子は「ある」と答えてくれるだろうとの思いでしたので驚きでした。県や市の結果に比べても10ポイント程低い結果でした。子供たちの自己肯定感が高まらないのはなぜか、教員も夏休み中に話し合いました。

- ・ 良いところというのを、特別にすごいことと捉えているのでは。
- ・ 当たり前のことを当たり前にできれば、充分良いところになるのでは。
- ・ 自分の良さに気づいていない子が多い。もっと良いところを認め褒めていこう。
- ・ 帰りの会や道德の授業で互いの良いところを見つけ伝え合う活動をやろう。
- ・ 子供たちの良いところを保護者にも伝え、家庭でも褒めてもらおう。
- ・ 子供たちが自信をもち、ありのままの自分を好きになっていけるようにしていきたい。

等の話が出て、夏休み明けから意識して取り組もうと動いています。

子供たちにも、「みなさんにはいっぱい良いところがあるね」と夏休み明けの朝礼の際に伝えました。

- ・ やらなければいけないことは、きちんとやろうとする子が多い。



・頑張って勉強しているので、授業が分かるという子が多い。

・みんなで何かするのは楽しいと思っている子が多い。

などの例を挙げながら、実は自分には良いところがたくさんある事に気づいてと話しました。同時に、友達の良いところをたくさん見つけて言葉にして伝えてあげようと呼びかけました。友達から言われると子供たちは大変嬉しいようです。少しでも子供たちの自己肯定感が高まるように、学校でも家庭でも子供たちの良い面を褒めていきましょう。

鍵盤ハーモニカ教室

1年生が外部講師の方に鍵盤ハーモニカを習いました。

木田小では数年前から継続して実施しています。毎年、子供たちは楽しみながらも真剣な眼差しで取り組んでいます。



上手な演奏を聴かせてもらって憧れを抱き、自分たちも上手に弾けるようになりたいとの思いを抱く。憧れは学びの原点の一つかもしれません。

芸術にしても、運動にしても目の前にモデルがあると真似してみたくなるものです。今回の教室で学んだ子供たちも、鍵盤ハーモニカが好きになってくれると良いですね。

ちなみに、教育界では鍵盤ハーモニカを略して「けんハ」と呼ぶようです。私は最初何のことかさっぱり分かりませんでした。皆さんはご存知でしたか。

3年生 木田の歴史を学ぶ

こちらでゲストティーチャーの田中さんをお招きして、木田地区や木田小の歴史について話を聞かせてもらいました。

以前学校だよりに書きましたが、元々木田小は現在の春日郵便局のあたりにあったことなども話されていました。

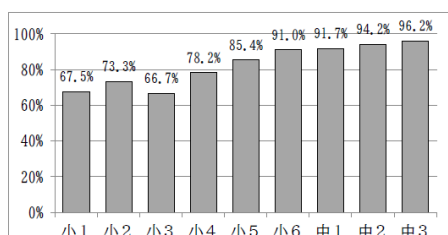


木田橋が「銭取り橋」であったこと、

板垣神社のいわれなど木田小の子供たちに知っていて欲しいことがたくさん話の中に出てきました。

田中さんは一乗谷朝倉遺跡の案内ボランティアもされているので、授業後に10月にオープンする朝倉遺跡博物館についても教えてもらいました。建設工事の際に出土した川湊の遺構が展示になっていることや復元された義景の居館である朝倉館のすがすがしい木の香などについて話されていました。歴史ロマン溢れる一乗谷に誕生する新しい博物館です。是非、家族で訪れて欲しいと思います。

アンケート集計結果



左のグラフは7月に行ったあるアンケートの集計結果です。どのような質問の結果だと思われますか。

「あなたは学校以外でインターネットを利用しますか」

という質問に「利用している」と答えた割合です。

夏休み前に実施したもので、1、2年生は保護者、3年生以上は子供たちがタブレットでQRコードを読み取り回答したものです。

先日、福井市の集計結果が学校にも届きました。家庭でインターネットを利用している割合は小6で90%を超えています。子供たちがインターネットで何を利用しているかを聞いた質問もあり、第1位は全ての学年で「動画を見る」でした。第2位は小学生の場合は「ゲーム」中学生は「音楽を聴く」でした。

自分専用の携帯電話を持つ割合は、中3では80%程で、小学校高学年でも50%を超えています。子供たちの今後の人生を考えると、好むと好まざるに関わらずインターネット環境の中で生きていかなければいけないと思います。だからこそ、今のうちに正しい情報モラル

を身に付けて欲しいと思います。

フィルタリングの設定率はあまり高くありません。家庭でルールを決めている割合は小学生の場合は70～80%です。時間、利用する場所、メールやメッセージを送る相手や内容、お金に関することなど、子供としっかり向き合って決め、子供たちを守ることが保護者に求められています。

インターネットにのめり込んで勉強に集中できなかったり、睡眠不足になったりしたことがある割合が小1ですでに6%いました。他にも、嫌がらせメールやお金の使いすぎ、知らない人とのメールのやりとりなどを経験している子供たちが、高学年では5人に1人位います。おそらく、これらの出来事が大きな問題にならずにはすんでいると思います。しかし、マスコミ等で時折取りあげられるように、大きな事件に発展し子供たちが被害に遭うこともあります。

今後、学校で使用しているタブレットを持ち帰ることもあると思います。家庭での利用については、保護者の皆さんの管理のもと、子供たちが学習用として有効に利用できるよう支援をお願いします。